

〈政策研究交流集会へむけて〉 協同で地域をつくり仕事をおこす

## 《第1分科会》 環境・ゴミ問題と協同

広瀬 謙一（協同総合研究所・事務局長）

### これまでの協同集会の歩み

これまでに開催された「協同を問う全国集会」。1990年集会（東京）では「ゴミリサイクル問題」が、92年集会（京都）ではこれに加え、地球環境サミットなどの世界的な環境運動の高揚の中で、「まちの緑の保全」「水資源の保全」「住まいの環境」等の交流がめざまされてきました。そこで取り上げられた討議の視点は、以下のものがあげられます。

①大量生産・大量消費・大量廃棄の社会から持続可能な社会の確立をめざす。

②社会を構成する全ての人々との協同の中から、生活様式の転換をめざす。

③その際、世界への視野を持ちつつも、具体的な環境破壊の解決のあり方を地域レベルから考え、実現していく。

④環境保全の公共性の論理、社会資本の整備等の課題を協同組合セクターの役割も位置づけながら明らかにする。

⑤生活様式、社会経済システムの転換を見通す技術の創造、新たな製品・機器類の開発製造等も展望に入れる。

### 今回の研究集会では何を追究するか

これらの諸点を受け継ぎながら、今回の研究集会では、③～⑤の点をさらに深め、合わせて「環境保全に関わる協同労働の役割」という課題を新たに加えて論議を深めて行きたいと、運営世話人（勝部欣一、中田宗一郎、都筑建、広瀬）のあいだで準備のための議論を重ね、以下の報告をお願いしますこととなりました。

総論の提起：勝部欣一（ユーコープ）「協同（組合）運動の環境問題への基本的な考え方」

報告①：中田宗一郎（中高年事業団連合会）

「労働者協同組合のゴミリサイクル政策の提案」  
報告②：大嶋茂男（生協総合研究所）「リサイクル社会の構築を一生ゴミの堆肥化と統一規格ビンの運動」

報告③：都筑建（タウ技研）「環境保全の協同のものづくりードラム式洗濯機と石鹼製造機等」

報告④：天谷和夫（元群馬大学教授）「大気汚染測定運動と自動観測システム」 ※敬称略

### 地域からゴミリサイクルのシステムを

勝部欣一氏からは近年、急速に盛り上がる全世界的規模の環境運動を包括的に紹介していただき、特に環境問題の根幹であるエネルギー問題にかかわって、地域分散型システムの確立と協同運動の担うべき課題を指し示していただきます。

中高年事業団・労働者協同組合では、群馬県玉村の事業団をはじめゴミ資源リサイクルの事業、医療廃棄物の処理、協同組合提携のリサイクル事業などに取り組んできました。その事業の成果を総集約し、リサイクル体系確立のための政策づくりを行ない、今夏の全国「自治体行動」で提案運動を巻きおこし、ゴミ問題から地域の公共性を確立しようとしています。地域住民や自治体行政と手を取合いながら、ゴミにまみれ、手選別という労働を付加することによりゴミを資源として蘇らせる労働者協同組合方式を、中田宗一郎氏の報告①で取り上げていきます。

合わせて、ゴミ・リサイクル問題の最も重要なキーポイントは「社会経済システムの変革」との主張をされている大嶋茂男氏からは、EM菌による家庭の生ゴミを有機肥料に再利用する運動と、ビン・リサイクルの統一規格化という運動の紹介を報告②でお願いし、環境ゴミ問題解決への社会経済システムの方向性と運動・事業の可能性を追求します。

## 環境保全への新たな挑戦

本年の研究集会では、これまで扱いきれなかった環境保全のための技術や生産への展望という新たな視点と課題を取り上げることに、その特徴があると言えます。この点を③と④の報告を受けて論議を深めています。

報告③の都筑建氏が関わるタウ技研では、これまで合成洗剤追放運動に加わり、廃食油をリサイクルする「石鹼製造機」等の開発に取り組んできました。しかし、洗剤と電機メーカーの「結託」による合成洗剤を普及する洗濯機を前にして、手づくり石鹼運動はあえなくしぼんで行く——それならば、水と洗剤の使用ができるだけ少ない、環境にやさしい洗濯機を造ってみようという取り組みが始まりました。私たちの生活様式の転換は、洗濯の方法を見直し、洗濯機というものを造ることによって実現されるだろうという、協同による開発・製造・普及の取り組みだったのです。

また、これまでの消費者運動はメーカーに製造を依頼するということでは止まっていたのですが、開発・設計・製造段階までも関わるという新しい消費者運動のスタイルも生み出しています。同時に、中小製造メーカーの技術開発力の高度化に着目し、大手メーカー主導の技術と生産のあり方も変えようとしています。

都筑氏は、町の電気屋がメーカー系列に取込まれている中で、町に「環境屋さん、＝補修・点検のサービス部門が生きづくことによって、家庭や地域での環境保全のネットワークを創り出したい」という夢を描いています。

### ものづくりや技術開発が運動を変える

このようにドラム式洗濯機の開発は、環境運動の新たな段階を約束するものとして取り組まれています。

同様に大気汚染の問題からアプローチされるものに、報告④の天谷和夫氏の実践があります。

都市部の自動車の急増にともない、大気汚染は一層深刻なものとなっています。この現状を何

とかしたいと、天谷氏が開発した直径1.4cm、高さ4cmの簡易カプセルを利用した大気汚染測定運動は全国に広がっていきました。測定日を決め、市・区・町村別、道路別の全国一斉測定を実施し、そのカプセルを集め測定値を図式化する運動は、数値という具体的根拠をもって自治体行政をも動かす力を発揮しています。

しかし、測定の結果がすぐに運動側に見えてこないという難点を解決するために、現在、瞬時に値が地域の測定者にわかる測定機を開発中であると聞いています。

環境保全運動に利用される機器の開発は、困難と思われていた運動を現実のものとし、人の結びつきや運動の広がりを保障してくれることとなるでしょう（2報告に関連する当日の展示等有り）。

### 労働者協同組合グループの結成から

今、ものづくりが運動の新たな可能性を生み出し、私たちの生活様式を変え、社会や経済のシステムを転換するといった展望が目に見える時代に入ってきています。労働生産協同組合の運動は環境保全のための事業や生産・ものづくりに挑戦し、全国のネットワークを創り上げようと、昨年末に労働者協同組合グループを結成するところとなりました。

この労協グループは、各事業体がもつ地域や利用者の情報を集積し、地域や利用者により密着した事業に生かし、合わせてシステムをも開発し、総合的な事業化を展望しています。また、環境保全に関わる「環境労働」といった働きがいのある仕事を開拓する可能性も生まれてきています。このことこそ今回の「政策研究交流集会」がかかげる「協同で地域をつくり仕事をおこす」というテーマを展望するものではないでしょうか。

バブル景気が崩壊し、失業と雇用不安は目の前に現実のものとなって現われてきています。地域の諸運動との結びつきを一層強め、環境保全の運動・事業と仕事おこしの水準をもう一段階高めるため、会員の皆さんを中心とした集会への参加と相互交流を期待するものです。